

Favorite Quote

□所要時間	15分程度
□主なスキル	本文から引用して具体的な説明をする（スピーキング、ライティング）
□形式	個人、その後ペアまたはグループおよびクラスで共有
□概要とねらい	
<p>読んだ本の中で印象に残った部分を抜き出し、それについてその本を読んでいない人にもわかるように説明し、なぜその部分が印象的だったのか理由を説明するアクティビティです。</p> <p>読書感想文や Book Report を執筆する際、読者に具体的に感想を説明するには、本文を引用し、なぜその部分が心に残ったのかなどを語ることが効果的です。単に「おもしろかった」、「初めて知った」というようなコメントにとどまらず、具体性があるとその本ならではの魅力を引き出す例を示すことで、自分の考えを深め、説明力をアップさせることにつながると考えられます。</p> <p>そのため、このアクティビティはより本格的な図書の紹介や発表をする前に実施すると効果的です。気に入った部分を紹介しあうだけでも、クラスメートがどんな本を読んでいるのか知る機会にもなります。なお、選んでくる引用部分は単語レベルでもセンテンスレベルでもよいこととして、「心に残った部分」を取り上げることから始めるとよいでしょう。</p>	
□事前準備（必要な教材、器具など）	
ホワイトボードがあると便利。	
□手順	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の初めに、favorite quote の趣旨を説明し、それぞれがその日読んだ本の中から心に残った部分を引用して、なぜ心に残ったか、授業の終了前にシェアしてもらうアクティビティを行うことを指示しておく。 2. 各自が授業内で多読を進め、気になる部分をピックアップしておく。 3. ホワイトボードなどに自分が選んだ引用部分を各自書いてもらう。 4. ペア・グループごとに自分が選んだ引用部分について、本の内容を踏まえながら説明する。その際、グループのメンバーはホワイトボードに文字化されている引用部分を参照しながら説明を聞く。（ペアかグループかはクラスの人数によって決める。少人数のクラスなら、一人ひとり順番にクラスでシェアしてもよい。） 5. クラス全体で、ホワイトボードに書かれた引用をいくつかピックアップし、クラス全体に説明してもらう。 	

【学生の反応】

- ・同じ本を選んだ人がいたのですが、違う部分を引用していて様々な見解があるんだなと面白かったです。
- ・とても楽しむことが出来ました。英語の名言やワンフレーズは、日本語のそれとは全く違う趣があって、英語ならではの表現を学ぶことが出来たと感じています。
- ・みんな面白い QUOTE を選んできていて、聞いていて楽しかったし読みたいと思えた。
- ・共有しあえるのも楽しかったし発表のためによりしっかり理解しようと意識できたのでよかったです。

【応用・解説】

Book Report を執筆する前に本アクティビティを実施することで、Book Report の質を高めることができます。感想を述べよといわれても、「おもしろかった」「知らなかった」からなかなか発展させられない学生に「心に残った箇所」を説明するという着眼点を与えることで感想や考察を具体化させる方法を教示することができます。本文を引用しながら説明するという方法は、アカデミック・ライティングでも重要なスキルでもあり、書く作業に慣れていない多くの日本人学生に必要な指導の一つでもあります。

「心に残った箇所」を引用するように指導すると、様々な切り口で選んでくれますが、気づきのターゲットの的を絞ることも可能です。例えば、面白いと思った英語表現を選ぶようにと指定すると、日本語のフレー！のもととなっているのが Hurray! という英語だったと気づいたり、「乗って」という表現が ride ではなく get on だったと気づいたり、英語表現に特化したたくさんの「発見」が期待できます。他にも韻を踏んでいる表現を見つける、直喩を探す、擬人化を見つける、オノマトピアに着目するなど、気づきを促したい部分を切り取って例を集めてもらうことが可能です。またそれをクラスで共有することで、一人の学習者の気づきが多くの学習者の学びになります。

通常、多読では基本的に学習者が思い思いの本を読むため、異なる本から favorite quote を拾ってきますが、同じ本を指定して、その中で心に残った箇所を報告してもらうことも可能です。それぞれの個性がより際立つ可能性があります。

なお、ホワイトボードに引用部分を書いてもらう理由は大きく2つあります。一つは引用部分を説明する際に、その部分が文字化されて見えるようになっていれば、聞き手にとってもわかりやすいということが挙げられます。作品の引用部分を口頭で聞くだけでは、記憶に残らないし、あっという間に忘れてしまうでしょう。もう一つは、クラス全体でどのような部分に取り上げられているのか一目で見ることができるので、クラスメートがどんな英文に興味を持ったのかを知ることができるからです。もちろん引用部分だけでは何が面白かったのかわかりませんが、興味を引き付けるスタートラインとなり得ます。引用の下に作品名を書いておいてもらえば、その作品を読んでみようという気になるか

もしれません。

(文責：小林めぐみ)